2-2 デジカメ用電池の種類

各種デジカメ用電池の種類と特徴を紹介しておこう。電池は、一般的な使い切りの乾電池（一次電池）と、繰り返し使える充電式電池（二次電池）に大別できる。

一次電池（使い切り電池）

一次電池はコンビニなどでも販売されており、入手のしやすさが最大のメリットだ。二次電池に比べて低価格なのもありがたい。しかし、消耗すればそれでおしまいなので、結果的にはコストがかかる。

●アルカリ乾電池

低価格で入手しやすい。ただし、電圧の低下が速いため持ち時間は短い。緊急時の予備電池として使える。

●リチウム乾電池

アルカリ乾電池より高価だが持ち時間は長く、電圧の変動も少ない。寒さにも強い。

1.5Vの単三型電池のほか、CR-V3と呼ばれる3Vの電池がある。サイズは単三型2本分より小さく軽い。CR-V3を使用するカメラでは、アダプターを使って単三型も使えることが多い。

●オキシライド乾電池

アルカリ乾電池を改良した乾電池。パナソニック（松下電器産業）が開発した。持ち時間はアルカリ乾電池の2倍以上。

●エボルタ

パナソニックが開発した新型の乾電池。マンガン、アルカリ、オキシライドに続く「第四世代」と呼ばれる。オキシライド乾電池に対して寿命が20～25%延びている。「世界一長寿命の乾電池」としてギネスに認定された。

●マンガン乾電池

最も低価格で入手しやすいが、電圧の低下が速く不安定なため、デジカメにはお奨めできない。

二次電池（充電式電池）

二次電池は一次電池に比べて入手しにくく、価格も高い。特に、カメラごとに形状の異なる専用充電池は他の電池に比べて高価で、カメラ店や家電量販店などでしか入手できない。小さな店では在庫がなく、注文してから入手できるまで数日待たなければならないこともある。

しかし、二次電池は充電によって繰り返し使えるため、結果的にはコストが低くなる。

●専用充電池

多くはリチウムイオン充電池が使われている。機種ごとに形状が異なっているため、他機種への流用はできない。また、価格も高い。

電圧の低下が少なく大容量なため、長時間の撮影が可能。カメラによって異なるが、フル充電状態で通常は数百～千コマ近く連続撮影できる。

ただし、カメラの内蔵ストロボを多用するかどうか、オートフォーカス機能や電動ズームを頻繁に行うかどうかなど、使い方によって消耗度は変わってくる。

●ニッケル水素電池

大容量で電圧が安定している。

充電時間は短く、500回程度繰り返し充電して使える。

●ニッケルカドミウム電池

低価格だが容量が小さいため、デジタル一眼レフの電池には不向き。